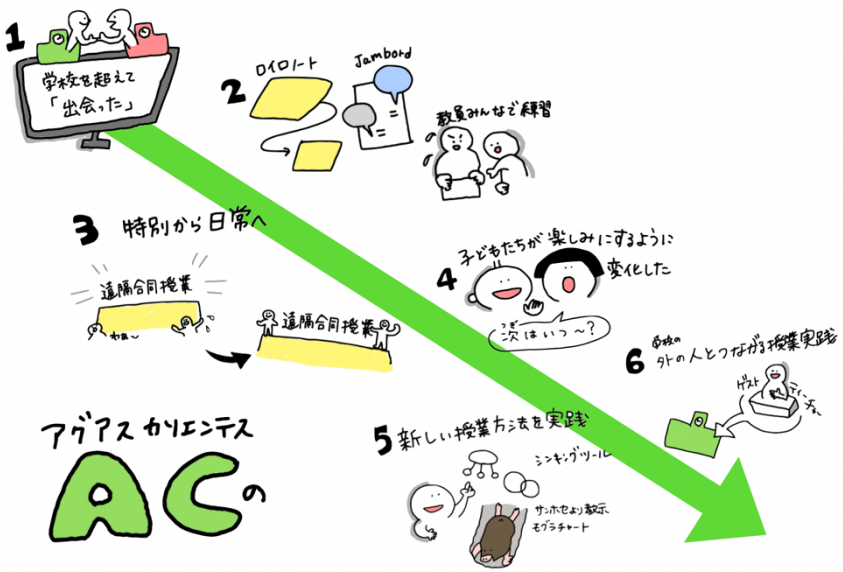
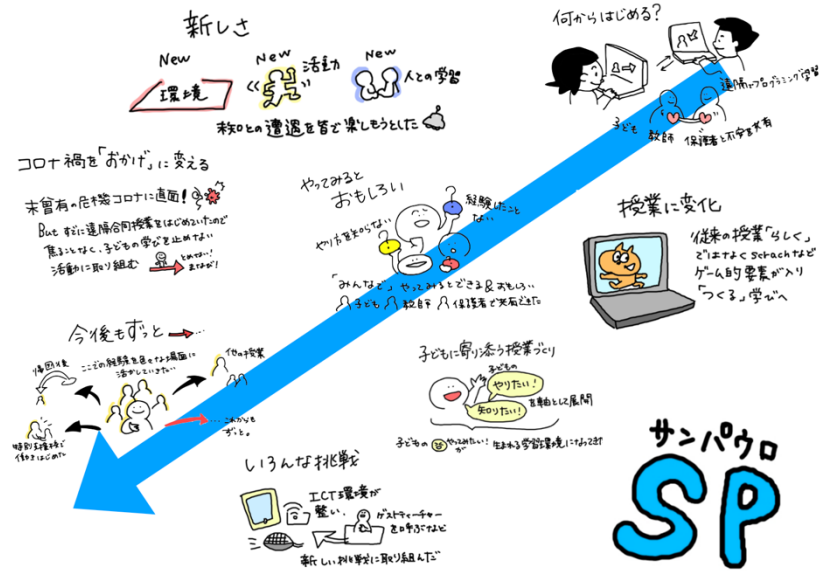
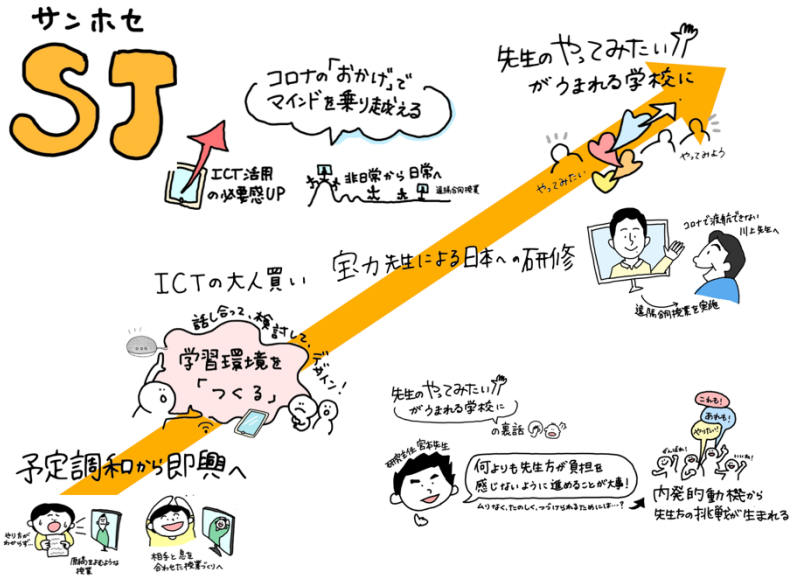
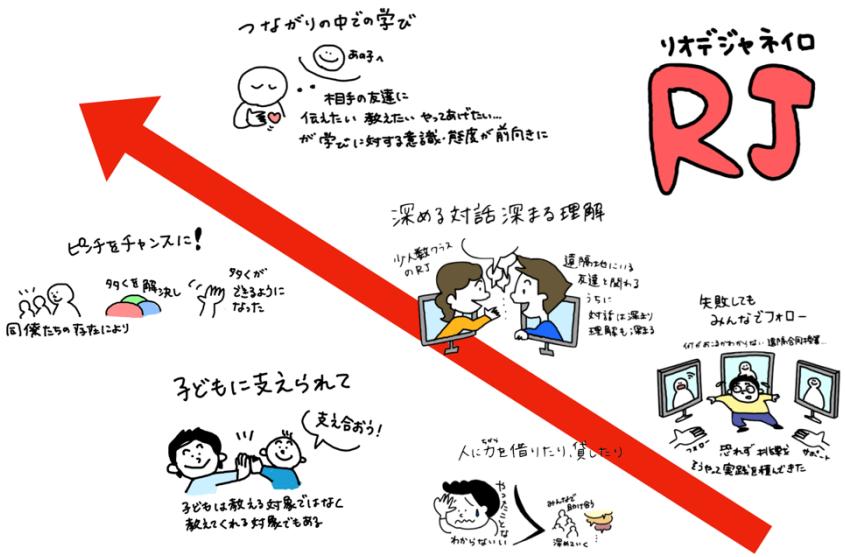

1
学校を超えて「出会った」
2
ロイロノート
Jamboard
教員みんなで練習
3 特別から日常へ
道幅合同授業
道幅合同授業
4 子どもたちが楽しみにするように変化した
次はいつ〜?
5 新しい授業方法を実践
シンキングツール
サンホセより教示
モブラチャート
6 学校の外の人とつながる授業実践
ゲスト
アグアス カリエンテス
ACの


新しさ
New 環境
New 活動
New 人との学習
未知との遭遇を皆で楽しもうとした
何からはじめる?
道幅ICTプログラミング学習
子ども 教師 保護者と不安を共有
コロナ禍を「おかげ」に変える
未曾有の危機コロナに直面!
But すぐに道幅合同授業をはじめられたのは
焦りもなく、子どもの学びを止めない
活動に取り組む
やってみると おもしろい
やり方をしらない
経験したことない
「みんなで」やってみるとできる&おもしろい
子ども 教師 保護者で共有できた
授業に変化
従来の授業「らしく」
ZOOMなとSCratchなど
ゲーム的要素が入り
「つくる」学びへ
今後もずっと
情報収集
ここの経験を生かす場面に活かしたい!
イロの授業
特別な授業から日常はじまり
子どもに寄り添う授業づくり
子どもの やりたい! 知りたい!
主動的な展開
子どもの やってみたい! が生まれる学習環境になれるか
しいろんな挑戦
ICT環境が整い、
ゲストティーチャーを呼ぶなど
新しい挑戦に取り組んだ
サンパウロ
SP


サンホセ
SJ
コロナの「おかげ」でマインドを乗り越える
ICT活用の必要感UP
非日常から日常へ
道幅合同授業
先生のやってみたいがうまれる学校に
やってみたい!
やってみよう
宝力先生による日本への研修
コロナで渡航できない 川上先生へ
道幅合同授業を実施
ICTの大人買い
話し合って、検討して、デザイン!
学習環境を「つくる」
予定調和から即興へ
やりたいがわからず…
用意されたような授業
相手と意を合わせた授業づくりへ
先生のやってみたいがうまれる学校に の裏話
初任者 宝先生
何よりも先生方が負担を感じないように進めることが大事!
ムリなく、たのしく、つづけられるためには…?
こんなも!
あれも!
やりたい!
内発的動機から先生方の挑戦が生まれる


つながりの中での学び
あの子へ
相手の友達に
伝えたい 教えたい やってあげたい…
が学びに対する意識・態度が前向きに
リオデジャネイロ
RJ
深める対話 深まる理解
リオ教室クラスのRJ
道幅ICTにより友達と関れる
うちに
対話に深まり理解も深まる
ピンチをチャンスに!
タスクを解決し
タスクがとまるようになった
同僚たちの存在により
失敗してもみんなでフォロー
何をしようかわからない、道幅合同授業
フォロー
恐れず挑戦 サポート
おやっと実践を種まきした
子どもに支えられて
支え合おう!
子どもは教える対象ではなく
教えてくれる対象でもある
人に力を借りたり、貸したり
やってみたいな
わからないし
みんなで助け合う
深めるとこ

（1）学校を超えて、「出会った」：教員、児童生徒の視野が広がった。 （2）ICT 活用への挑戦 ：ロイロノート、Jamboard の使い方を先生みんなで練習し、合同授業や日常の遠隔・対面授業等で活用するようになった。 （3）特別から日常へ：気軽に日常的に遠隔合同授業ができるような環境づくりを２校で構築できた。 （4）子どもの変化：子どもたちが遠隔合同授業の「次」を楽しみにするようになった。また、より主体的に学び、自分の意見や考えを発表できるようになった。 （5）新しい授業方法を実践：サンホセ日本人学校から教えてもらったシンキングツールやモグラチャートなど新しい教え方を学び、自身の授業を更に工夫するようになった。 （6）学校を超えたつながり：ゲストティーチャーなど外の人とつながる授業を実践できるようになった	1）何からはじめる？：プログラミング学習で遠隔合道授業を計画。新しい環境に出会い、教師も、子供も、保護者も不安と楽しみを共有 （2）授業に変化：従来の授業「らしく」ではなく、スクラッチなどを授業でやってみることで、ゲーム的な要素が入り、「つくる」学びへ。 （3）新しさ：新しい環境、新しい活動、新しい人との学習。とにかくいろんな「新しい」にふれ、未知との遭遇をみんなで楽しもうとした。 （4）やってみるとおもしろい：やり方をしらない、経験したことがないことも、「みんなで」やってみると、できる。やってみるとおもしろい。そんな体験を教師、子供、保護者で共有できた。誰かのできるをつなぎあわせて、みんなでできるをつくっていった。 （5）コロナ禍を「おかげ」に変える：未曾有の危機コロナに直面！すでに遠隔合同授業をはじめていたので、焦ることなく、それまでやってきたことを土台に、子どもの学びを止めない活動に取り組む （6）子どもに寄り添う授業づくり：子どものやりたい、やってみたい、知りたいを軸として授業を展開。子どものやってみたい！がうまれる学習環境になってきた。 （7）いろんな挑戦：ICT 環境が整い、ゲストティーチャーを呼ぶなど新しい活動を始めた。常に新しい挑戦に取り組んだ。 （8）今後もずっと：ここでの経験を他の授業や帰国後もいかしていきたい。特別支援学校で働きはじめた教員もこの経験をいかしている。これからも、ずっと。
（1）予定調和から即興へ：最初はやりかたがわからず、原稿を読むような遠隔会議・・。たけのこニョッキなど遠隔合同授業でアイスブレーキングをやってみると肩の力が抜ける。予定調和ではなく、相手と、そして、子どもと息を合わせた授業づくりへ。 （2）ICT の大人買い：機材をただ買うのではなく、学習環境全体を「つくる」。どういう学習環境が必要か？話し合って、検討して、全体をデザイン！ （3）コロナの「おかげ」でのマインドで乗り越える：コロナ禍の中で、ICT 活用の必要感がぐんと上がる。非日常だった遠隔授業が日常になっていった。 （4）宝力先生の日本への研修：コロナ禍で渡航できない川上先生に宝力先生が遠隔授業を実施。宝力先生からの宿題もしっかりやっていくうちに、遠隔授業に慣れてきた川上校長。サンホセに赴任した時に、遠隔合同授業が特別ではなく、普通に授業もできるようになっていた。 （5）先生のやってみたい！がうまれる学校に：先生の、やってみよう、やってみたいが次々に生まれる。遠隔合同授業が日常化しただけでなく、常に新しい挑戦が生まれていく。 （6）先生のやってみたい、がうまれる学校づくりの裏話：何よりも先生方が負担を感じないように進めることが大事！と研究主任の宮本先生。無理なく、楽しく、続けれるためには？それを追求していくうちに、先生方から「もっとやりたい」が生まれてきた。外発的な動機ではなく、内発的な動機から、先生方の挑戦が次々生まれていく。そして、みんなが誰かの背伸びを応援できる環境になっていった。 （7）これから：下重先生の言葉「ICT なしでもう授業するイメージがわかない」それくらい ICT が日常になったサンホセ。ICT は、先生にとっても子どもにとってもちょうどいい道具になりました。これからも先生方の挑戦は続く。	（1）失敗してもみんなでフォロー：遠隔合同授業では、何が起こるかわからない。だからこそ、みんなで失敗を恐れず、挑戦！失敗したらみんなでフォロー。そうやって、みんなが実践力を積んできた。 （2）人に力を借りたり、貸したり：やり方がわからないこと、経験したことがないことは常に起こる。だからこそ、みんなで助け合う。そして、みんなで深める。 （3）深める対話、深まる理解：少人数クラスの RJ。遠隔地にいる友達と関わるうちにどんどん対話が深まっていく。そして理解も深まっていった。 （4）子どもに支えられて：子どもは教えの対象ではなく、教えてくれる存在でもあった。わからないことがあっても子どもにも力を貸してもらって遠隔合同授業を実践できるようになった。 （5）つながりの中での学び：相手がいることは子どもを大きく成長させる。相手の友達に教えたい、やってあげたい、そういった気持ちが、学びに対する意識や態度を前向きにする。 （6）ピンチをチャンスに！：コロナ禍の「せいで」と嘆くのではなく、ピンチをチャンスに変えることができたのは、同僚たちの存在。周りの助けによって、多くを解決し、多くができるようになった。